

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
分担研究報告書

入院病床と小児科医の適切な配置に関する研究

研究分担者 江原 朗 広島国際大学医療経営学部教授

【研究要旨】

厚生労働省の「患者調査」を用い、二次医療圏を超えた小児入院患者の流入・流出を明らかにした。高次医療機関所在地、人口当たりの小児科医師数が多い二次医療圏で流入超過、その周辺部で流出超過が見られた。

A．研究目的

各二次医療圏における小児入院医療資源の多寡を推計する指標を提示する。

B．研究方法

平成 26 年「患者調査」(平成 26 年)を用い、圏域内の医療施設に入院する小児患者数と圏域内に住所地を有する小児の入院患者数との差から、二次医療圏を超えた小児入院患者の流入・流出を明らかにする。

(倫理面への配慮)

公開された資料を用いており、倫理的問題は生じない。

C．研究結果

流入超過は、県庁所在地を含む二次医療圏、小児入院医療管理料 1 および 2 (常勤小児科医 20 人および 9 人以上)の病院が所在する二次医療圏、人口当たりの小児科医が多い二次医療圏に多くみられた。流出超過は、関東、中部、近畿の流入超過の二次医療圏の近傍の医療圏に見られたが、他の地方ではごくわずかであった。

D．考察

小児の入院が流入超過となる二次医療圏が大学病院やこども病院のある地域であり、その周辺の二次医療圏が流出超過となることは十分考えられる。また、こ

うした現象が三大都市圏で生じている。

一方、その他の地方では、こうした流入・流出超過が見られなかったが、僻地においては小児患者の流出が少ないながらも認められる予想される。

地方の小児医療を確保するには他の指標を定義することも同時に必要である。

E．結論

高次医療機関所在地、人口当たりの小児科医師数が多い二次医療圏で小児入院患者の流入超過、その周辺部で流出超過が見られた。

F．健康危険情報

特にありません。

G．研究発表

1. 論文発表

江原朗．二次医療圏を超えた小児入院患者の流入と流出．日本小児科学会雑誌 120 巻、1812-1817 頁、2016 年 12 月 1 日。

2. 学会発表

第 54 回日本医療・病院管理学会 (2016 年 9 月 17 日から 18 日、東京都)「二次医療圏における小児入院患者の流入と流出の収支について」

H．知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし